

【別紙様式 3】

再評価実施事業調書

番号	5	事業名	社会資本整備総合交付金（河川事業）		路線又は箇所名等	一級河川利根川水系印旛沼				
事業所管課		河川環境課			事業主体		千葉県			
事業化年度	平成15年度	用地着手年度	—		工事着手年度	平成16年度	再評価の理由	再々評価		
					工事終了（認可）年度	令和12年度				
費用便益比 B/C	2.9 (2.9)	総費用	174.3 億円 (84.3 億円)	総便益	499.0 億円 (248.3 億円)	基準年	令和 4 年度	供用開始年度	令和 13 年度	

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

<p>【事業概要】 （目的） 印旛沼では昭和 40 年代以降、人口増加、市街地の発展に伴って、家庭や工場・事業所からの汚濁負荷により、水質が悪化し、度々アオコが発生するようになった。さらには、近年水質が連続で全国ワースト 5 に入るなど、決して良好な状態であるとは言えない。こうした水質の悪化を改善すべく、植生帯の造成や底泥浚渫、河川浄化施設整備を行い、「恵みの沼」を再生することを目的とする。</p>											
<p>【事業の進捗状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>全体計画（億円）</th> <th>事業実績費（億円）</th> <th>残事業（億円）</th> <th>進捗率（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>150.0</td> <td>48.8</td> <td>101.2</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>①植生帯造成 2.4km/12.1km（20%） ②底泥浚渫 10.2 万 m³/67 万 m³（15%） ③浄化施設設置 0ヶ所/1ヶ所（0%）</p>				全体計画（億円）	事業実績費（億円）	残事業（億円）	進捗率（%）	150.0	48.8	101.2	33
全体計画（億円）	事業実績費（億円）	残事業（億円）	進捗率（%）								
150.0	48.8	101.2	33								
<p>【社会経済情勢等】</p> <p>○流域状況 下水道整備、浄化槽の導入等が進んでいるものの、流域人口は増加傾向にある。また、流域の土地利用は市街地等が増加傾向にある。</p> <p>○水質の状況 これまで、様々な対策を進めてきたことによって、最も水質が悪化した時期に比べると水質（COD）は改善しているものの、依然として高い水準（令和 2 年 10～11mg/L）で横ばいに推移しており、環境基準（COD75%値 3mg/L）には達していない。</p> <p>○水質状況の変化（COD）</p> <p>◇過去最も高かった年の平均値 （北印旛沼）COD・・・13mg/L（H6）（西印旛沼）COD・・・13mg/L（S59）</p> <p>◇現況値 （北印旛沼）COD・・・11mg/L（R2）（西印旛沼）COD・・・10mg/L（R2）</p>											
<p>【対応方針（案）】 印旛沼流域では、人口増加、市街地面積の増加は続いているものの、本事業の推進、関連施策を推進しているため、現状の水質を維持しているところである。 現時点においても、地域の水質改善の要望は強く、事業の投資効果も見込まれることから、事業を「継続」したい。</p>											

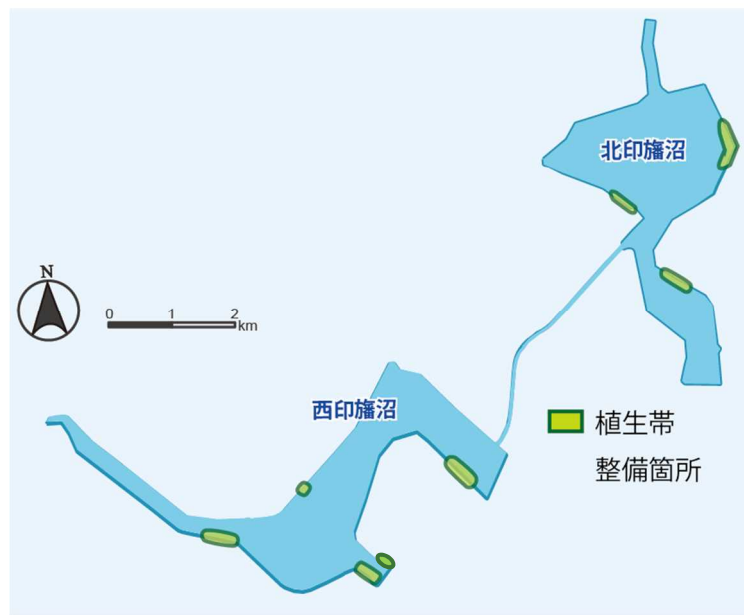
【別紙様式 4】

事業概要図

番号	5	事業名	社会資本整備総合交付金（河川事業）	路線又は箇所名等	一級河川利根川水系印旛沼
----	---	-----	-------------------	----------	--------------

■ 植生帯造成

内容	○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生
効果	○水生植物による水質改善 ○生物の生息環境の創出や透明度の改善
規模	○整備済み：2.4km ○全体計画：12.1km



■ 底泥浚渫

内容	○水質汚濁の原因となる浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保
効果	○水質悪化の防止・低減
規模	○浚渫済み：10.2 万 m ³ ○全体計画：67.0 万 m ³

■ 浄化施設設置

内容	○汚濁した河川に水質浄化施設を設置
効果	○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚濁負荷の削減
規模	○全体計画：1 箇所

【別紙様式 5】

再々評価事業に関する調書

番号	5	事業名	社会資本整備総合交付金（河川事業）	路線又は箇所名等	一級河川利根川水系 印旛沼
事業化年度	平成 15 年度	用地着手年度	—	工事着手年度	平成 16 年度

【再評価の概要】

再評価実施年度 （基準年）	平成 29 年度	供用開始年度	令和 13 年度	対応方針	継続
B / C	3.6	総費用	143.7 億円	総便益	523.5 億円

再評価時の委員会の意見 及び当時の状況
平成 30 年 3 月 千葉県県土整備 公共事業評価審議会
事業再評価「継続」

再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状

	計 画	進捗状況
全体事業費	150.0 億円	43.2 億円
用地取得面積	—	—
供用面積（延長）	—	—

【再々評価の概要】

再評価実施年度 （基準年）	令和 4 年度	供用開始年度	令和 13 年度	対応方針	継続
B / C	2.9	総費用	174.3 億円	総便益	499.0 億円

現在の進捗状況

	計 画	進捗状況
全体事業費	150.0 億円	48.8 億円（33%）
用地取得面積	—	—
供用面積（延長）	—	—

再評価後の経過
及び
処理状況

- 事業の進捗の見込み
 - ・水質改善については、地域から強い要望があり、第 8 期印旛沼湖沼水質保全計画（令和 4 年 3 月策定）においても、湖沼の浄化対策として、植生帯の整備等が位置付けられている。
 - 用地買収がないことから、事業の進捗が見込まれる。
- コスト縮減
 - ・浚渫発生土を植生帯造成として用いることにより、コスト縮減を図っていく。
 - ・今後もコスト縮減を図るための新技術利用の可能性について、引き続き検討していく。